

令和6年度パブリックワーク発表会開催に当たりまして

まずは、御来賓をはじめ御来場の方々に、一言お礼を申し上げます。

皆様におかれましては、日頃から、本校の教育活動に御理解並びに御協力いただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

本日は、足元が悪い中、新上五島町から、山本元之教育長様をはじめ、新上五島町役場並びに教育委員会の方々、この1年を通して御指導・御支援をいただいたサポーターやアドバイザーの皆様、生徒と協働して防災イベントに取り組んでくださいました長崎県男女共同参画推進センター、そして多くの保護者の皆様及び学校運営協議会の方々に御出席いただき、誠に有難うございます。

さらに、本校に近接する若松中央、若松東及び奈良尾の3つの小学校からも、将来を担う児童の皆様及び先生方に御参加いただいております。このように多数の方々に本会への御協力を賜りますことは、生徒及び職員にとりまして大きな喜びであり、励みとなります。心から感謝申し上げます。なお、発表が終わりまして県教育庁からの講評を予定しておりましたが、悪天候に伴い来校が叶いませんでしたので、誠に申し訳ございませんが割愛させていただきます。

さて、パブリックワークとは、今から10年程前に「社会的な問題の解決をめざして、多様な立場の人々と協同する取組」として本校において創始されました。「郷土を愛し、他者を思いやり、チャレンジ精神にあふれ、地域のリーダーとして集団を導くことができる人材」の育成を目指す本校にとって、このパブリックワークは全ての生徒が1年生の後半から2年生にかけて取り組むことになっております。また、ビジネスキャリア教育や通級による指導とともに本校の教育活動の中核を成すもので、各教科での学習や特別活動と幅広くかつ深く連携しながら、地域社会に向き合い、課題を見出し、その解決に向けて主体的でかつ協働的な学びとして、また本校の文化として定着しつつあるところです。

しかし、様々な学びを深めたいという向上心や地域をより良くしたいという郷土愛が強くても、実際に学習活動を進めていくことは容易ではありません。また、オーストリアに生まれ、後にアメリカ合衆国で活躍した経営者のピーター・ドラッカーは、「重要なことは、正しい答えを見つけることではない。正しい問いを探すことである。」という言葉を残しています。生徒たちが毎年入れ替わる中で、本校においてこのパブリックワークの取組が持続して発展的に継続してきたのは、サポーターやアドバイザーの方々など多くの皆様からの御指導・御助言を承ってのことです。本年度、新上五島町として町政が施行されて20年が経過し、本校も来たる令和7年度に創立60周年を節目の年を迎えます。本取組は、各生徒がこうした温かい御支援をいただく地域社会とのつながりを一層深め、高校生として成し得ることに積極的に関わろうとする意志や態度を再認識し、併せてふるさつに対する愛着や誇りが高まる機会になればと考えております。

本年度は、7月に町が主催する提言発表会、8月の本校での中間発表会を経て、関係生徒は時に実験や各種データを踏まえた科学的な手法に加え、アンケートのほか対話に基づく現地調査等を踏まえながら、内容の精査に努めてきたところです。その学びの成果に対し、それぞれのお立場から忌憚のない御意見をいただければ幸いに存じます。

ところで、生徒の中でも本日の主役となる2年生ですが、学びの成果をしっかりと会場の皆様にお伝えできるよう、落ち着いて普段の取組を披露してください。また、質疑に際しては、校訓に掲げられている「誠実」な姿勢をもって内容を拝聴し、チームで協力して対応していくことを期待しています。次に、3年生は自身の昨年度を振り返りながら、1年生は次年度にこの場を担うという立場を念頭に、積極的に関わっていくことを見込んでいます。

最後になりましたが、これまで様々な場面で御支援いただきました皆様に、また本日御来校いただきました皆様に、改めて感謝の意を表し、開会の御挨拶といたします。本日はよろしく願いいたします。